

東京 FAXニュース 2018 9.6 No. 52 JR東労組東京地本

東地申5号
9月6日開催

E233系で発生したドアに関わる故障に対しての団体交渉開催!~その1~

※団体交渉開催にあたり、地本から主張を述べる!※

この間、お客さまからの信用失墜につながりかねない車両に関わる事象が相次いで発生している。緊急な申し入れに対しての日程調整に感謝するとともに、真摯な議論を要請する!

1. 2018年7月29日、8月5日に発生した京浜東北線のドアに関わる故障、及び2018年8月10日に発生した常磐緩行線のドアに関わる故障の原因と対策を明らかにすること。

【会社回答】

京浜東北線における2件の事象については、ドアを閉扉する際に動作する継電器の不具合が原因であった。また、常磐緩行線の事象については、ドアを開扉する際に動作する継電器の不具合が原因であった。なお、対策として順次継電器の交換を実施している。

主な議論内容

- 【組合】常磐緩行線について、ドアが開扉しなかったということでプレス発表もされているが、お客さまにご迷惑をおかけした重要な事象であると認識しているが会社の認識を示すこと。
- 【会社】同様の認識である。今後は、再発防止に努めていく。
- 【組合】それぞれの故障の原因と対策を明らかにすること。
- 【会社】京浜東北線の2件については、ドアを閉める指令を受けるDMCRの接点抵抗値が大きく導通しなかったためである。3カ月に一度定期的に継電器を検査していたが、今回の故障が発生してしまったため、京浜東北線の車両については、2~3か月かかるが、すべて新品の継電器に取り換えている。常磐緩行線については、ドアを開けるDORTDRの導通不良のためである。これらの継電器は、10数年に1度の車体保全で点検するものである。京浜東北線の特情として島式ホームのため、ドアを扱う動作回数が偏ってしまい、継電器の劣化が早かったことが直接的な原因である。常磐緩行線についても京浜東北線同様新品に取り換えていくが、納期に時間がかかるため、現在使用している物を1位側と2位側で振り替えることを検討していく。
- 【組合】動作不良が起きるのは、シリコンガスが入り込んでしまうことが原因ではないのか。なぜ、シリコンガスが入り込んでしまうのか。
- 【会社】ドアを扱う回数が多いだけではない。シリコンガスの影響もある。シリコンガスは、機器箱のシール材から発生するものであり、新車を導入するときから、シリコンガスが発生しないようノンシリコンのものを使用して対策している。
- 【組合】車体保全以前の定期検査で継電器を取り換えるなど抜本的な対策を行うこと!
- 【会社】東京総合車両センターと協力し、装置保全などの定期検査で対策できないかなどを検討している。継電器の取り替えがよいのかを含めて検討していく。また、線区に応じた検査ができないかなどを検討している。
- 【組合】以前、密閉式リレーを開発していたが現状を明らかにすること。
- 【会社】以前開発していたが、カバーに亀裂が入るなど実現に至っていない。
- 【組合】事象発生の原因や理由について、乗務員区所など関係個所へも周知すること。
- 【会社】車両故障に限らず、設備故障などについても、引き続き周知していく。
- 【組合】ドアが開けなかったということで、乗務員はドアスイッチ扱いに不安を感じている。常磐緩行線の事象については、乗務員はドアが開扉していないことに気づいていなかった。何を確認すれば良いのか。また、把握できなかったことに対して、車掌は責任を問われるのか。
- 【会社】乗務員は、基本動作を行って車側灯を確認してもらえない。車側灯を確認していれば、ドアが開扉していない箇所があっても車掌に責任は問わない。

- お客さまにご迷惑をかけたという認識に立つこと!
- 両線区の車両の部品を新品に取り換えること!
- 引き続きメンテナンスを強化していくこと! ~2項へ続く~

